アジアにつながる文化の輪！

新しい音との衝撃的な出会い インドネシアの野外音楽フェスティバル RRRec Fest in The Valley 2014 レポート

2014.12.10

1
いいね！
ツイート
0
G+1

会場となるスカブミのキャンプ場へ

10月31日から3日間にわたってインドネシアのスカブミという町にあるタナキタキャンプ場という場所で開催された音楽フェスティバル「RRRec Fest in The Valley 2014」を訪問してきました。

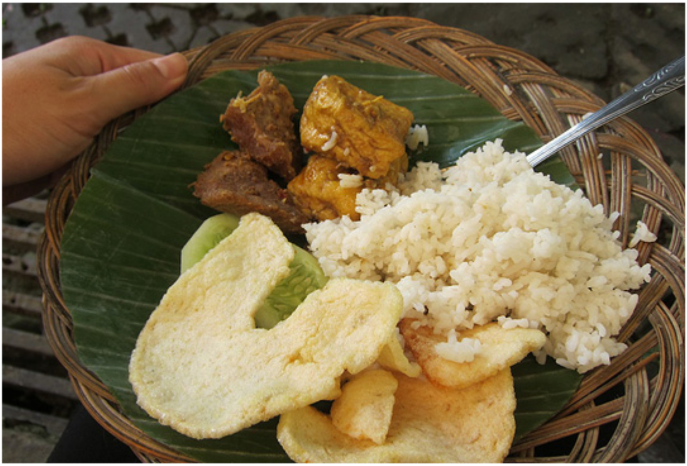
日本でも野外音楽フェスティバルは開催されますが、インドネシアの音楽フェスティバルってどんな感じなんだろう？というワクワクを感じながら会場へ向かいました。

ジャカルタを車で出発してから3時間弱、スカブミに到着。街のメイン通りを通過するとすぐに、一面田んぼの風景が広がってきました。だんだんと舗装されていない山道に突入し、タナキタキャンプ場に到着したのは午前10時前。

会場に到着するとちょうど、食事スペースであるサロン広場ではのんびり朝食タイムのようでした。

アーティストにスタッフ、家族連れの参加者や犬まで全員が分け隔てなく、インドネシア料理の朝食を一緒にとるという和やかな雰囲気が出迎えてくれたのです。

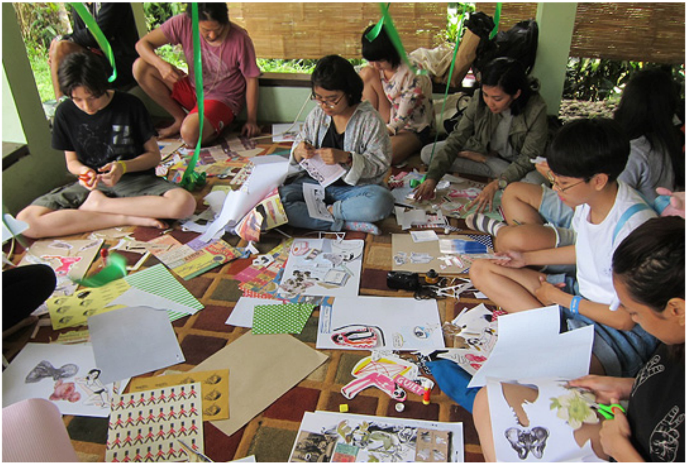
会場に到着するとスタッフの方が笑顔で「朝ご飯をどうぞ」と声をかけてくれ、私も一緒に朝ご飯を頂くことに。



会場の様子

この音楽フェスティバルには、様々なエリアが設置されています。山の谷間に設置されたメイン会場、DJブース、マルチメディア（映像や音楽を実験的にミックスする）エリアの他に、食事をとるサロン広場、ワークショップ、トークショーエリア、アート展示会場などがあります。それぞれのエリアには参加者の宿泊テントも設置されていて、夜には静かな大自然に囲まれて眠り、朝には野鳥の声で目が覚める、そんな素敵な宿泊スタイルです。

サロン広場のすぐ横では、ワークショップが開催されていました。



この時行われていたのは、ジャカルタのアーティストグループ「CUT AND RESCUE」が主催する アート・コラージュ作品作りでした。参加者がCUT AND RESCUEのイラスト作品を、好きなように切り取って白い紙に貼付けて、オリジナルポスターに仕上げていくというものです。誰でも簡単に参加できるワークショップですが、みなさんの様子は真剣そのもの。

RRREC FEST
IN THE VALLEY
Workshop Poster Kolase
bersama
CU RESCUE

CUT AND RESCUEのメンバーの１人、イラストレーターのMARISHKAさんと、
彼女のデザインしたワークショップ・ポスターの前で。

HOW TO SWITCH OFF
WITHOUT HESITATION

「難しいことは何も考えずに直感で作りました！」という参加者の方に
作品をみせてもらいました。

ワークショップ会場横の休憩エリアで、日本では見たことのない面白いものを発見しました。ここにはコーヒーや紅茶などが自由に飲めるコーナーが設置されているのですが、なんと薪でお湯を沸かしていたのです。

こういうアナログなところが、ほんわかした雰囲気を作っているように思えました。

その奥のトークショーコーナーでは、東南アジアでの音楽を通じたネットワーキングをテーマに、真剣なトークショー（実際に活動をしているインドネシア、シンガポール、マレーシアのアーティストが体験を語る）が開催されていました。

テント設置会場ではバドミントンに興じる参加者の姿も

STAGE 1
STAGE 2

自然に囲まれてリラックスしながら音楽を楽しめます。

アコースティック・ライブコーナーでは、チェロのアコースティックミニライブ

午後から始まるライブを控え、午前中はこんな風に朝ご飯をゆっくり食べておしゃべりをする人もいれば、トークショーに参加する人、ワークショップで作品作りに参加する人もいたりと、各々が自由に参加できるオープンでゆったりとした雰囲気がただよっています。

RRRec Festってどんなイベント？

１日が全員との朝ご飯で始まるという面白いこの音楽フェスティバル「RRRec Fest」について、主催者の１人、Ade Darmawanさんにお話を聞いてみました。

WE ARE HAPPY
TO EAT THE REST

ーどんなイベントですか？

もともとは僕たちのアート・オーガニゼーションが、10周年を記念して音楽やアートを一緒に楽しむパーティーを、2011 年に開催したのが始まりです。それが面白いと受け入

れられて定期的に開催し、今年で4回目になります。

これまでは、ジャカルタの街のカフェやパン屋、そしてビルの屋上等、同時に異なる数カ所が会場となって、参加者が好きなところを行き来できるという形式のイベントだったのですが、今年は自然豊かなスカブミのキャンプ場での開催となりました。

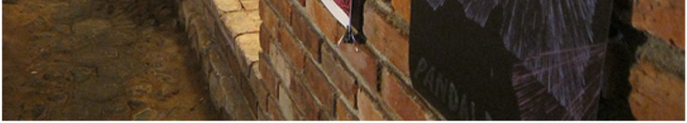
コンサートをはじめ、ワークショップやアートの展示等、ジャンルの隔たりなく色んなイベントを同時に開催しています。規模は300人程で、巨大なイベントというよりも参加者みんながつながれる規模を大切にしています。

ー今回はどうしてキャンプ場を選んだのですか？

参加者とアーティストの距離を縮め、コミュニケーションできるようにすることが目的だからです。ジャカルタの喧噪を離れ、リラックスして誰もが一緒になって食事をしたり、音楽を楽しんだり、ワークショップに参加したり、話し合ったりすることで結びつきを強くすることができるのです。

ーどのようなアーティストが参加していますか？

実験的な創作をしているアジア各国のアーティストを招待しています。また、音楽のジャンルもジャズ、ボサノバ、ロック、ポップ、実験的なものまで様々です。また、参加ミュージシャンの中には音楽だけでなく、イラストを描いたりデザインをしたりする人も少なくありません。そういったアーティストたちが作成したポスターの展示会も開催していますよ。



こういう風に、アートと人が分け隔てなく行き来して、新しいものが生まれるというのがこのイベントの面白いところだと思います。また、今回はミュージシャン同士のコラボレーションも見所です。今回、国際交流基金アジアセンターの協力を得て日本のアーティストをこのイベントにゲストとして呼び、インドネシアのミュージシャンとコラボライブも実現しました。

インドネシアと日本のアーティストとのコラボコンサート

今回、このイベントに招待された日本人アーティストが、ベルリン在住の音楽家、内橋和久さん。彼はこれまでにも、インドネシアのアヴァンギャルド・ユニット「SENYAWA」とコラボツアーを日本で成功させ、特に若い日本人の女性の心をつかんだといいます。

内橋さんの音楽スタイルは、ドイツ人の友人が開発したという新しい楽器を使った実験音楽。内橋さんとSENYAWAの即興ヴォーカリスト Rully Shabaraのコラボレーションが、今回のイベントでインドネシアの観客にどのように受け入れられるのかが楽しみです。

そして、いよいよイベント最終日の16時、最後の演奏となる内橋＆Rullyの登場です。

内橋さんのスーツケースから、続々と取り出される機材たち。観客たちは、見たことのない機材に興味津々で、音が鳴り始めるまえからステージに集まってきました。

突如爆音のギターが流れ始め、会場の谷間に響き渡ります。謎の楽器は、まるで動物の鳴き声のような音を生み出し、一時も同じ音が続くことはありません。

この、なんとも形容しがたい音が次々に溢れてくるステージに、観客は体を動かすことなく、ステージに身を乗り出してじっと観察し、考えるように見入っています。ある人は眉間にシワを困ったような表情をしていたほどです。観客の集中力には、こちらも息をひそめるほどの緊張感が漂っています。

そして、途中からRullyが登場しました。彼のヴォーカルが、内橋さんの奏でる音に踊るように絡み付いてきます。

どれだけの演奏時間だったか……終了した頃には日も落ちて辺りは暗くなってきました。拍手をしながら呆然としている観客らに話を聞いてみました。

「なんて表現したらいいか分かりません！」

「すばらしかった！これはなんという音楽なのですか？」

「僕の耳にはとても新しい音楽でした」

「また聴きたい、次のライブはあるの？」

新しい音との出会いに、どうしてよいかわからないショックを隠しきれないという観客がほとんどだったのが印象的でした。

内橋さんはそのリアクションを受けて、
「新しいものに出会ってどう受け止めて良いかわからない、それでいいんです。 これからどうやって解釈するか、人それぞれ向き合うのが大切なのです。私も３年前に初めて

シンガポールの音楽イベントでSENYAWAとコラボした時に、『なんだこれは！』と驚き、どう音で向き合うか試行錯誤ました。この運命的な音楽の出会いを幸せだと感じていますし、いまでは兄弟のように感じています」

今回、日本から来た新しい音が、インドネシアの観客たちに衝撃を与えるという現場に居合わせることができました。この新しい音との出会いが刺激となって、またインドネシアで新しいものが生まれてくるかもしれません。

企画名	RRRec Fest in The Valley 2014
日時	2014年10月31日（金）～11月2日（日）
会場	インドネシア　スカブミ　タナキタキャンプ場
主催	ルアンルパ財団（Yayasan Ruang Rupa）
助成	国際交流基金アジアセンター
出演	内橋和久、Rully Shabara （from SENYAWA）、The Analog Girl、matajiwa他
URL	http://rrrec.ruangrupa.org/2014/

中村綾花：フランス・パリを拠点に活動するフリーライター。著書は、世界で婚活の旅をしながら恋愛・結婚事情をレポートした「世界婚活」（朝日出版）。有料コンテンツ・サイト「cakes」にてパリの本当の日常をレポートする「すっぽんぽんパリ」連載中。https://cakes.mu/series/3055

1　ツイート　0

いいね！　G+1

アジアにつながる文化の輪！